

事前評価個表

整理番号	29
------	----

地域（地区）名	八溝多賀地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	茨城県	対象市町村	北茨城市ほか5市町
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	市町，森林組合，森林所有者等

事業の概要・目的	<p>八溝多賀計画流域は県北部に位置し，東は太平洋，北は福島県，西は栃木県，南は水戸那珂森林計画区に接する地域で，北茨城市，高萩市，日立市，常陸太田市，常陸大宮市，久慈郡大子町の5市1町を包括している。主な山岳は県内最高峰の八溝山，鷲子山，男体山，和尚山及び土岳等で，山地の土壌は適潤性の褐色森林土壌が広く分布しており，スギ・ヒノキの優良な人工造林地帯となっている。</p> <p>本流域は林野率約69%と県平均の約32%を大きく上回っており，本県の代表的な林業地帯である。また，スギ・ヒノキ等の人工林は，枝打ちや間伐等保育の必要な森林が人工林面積の約17%，主伐期を迎える林分が人工林面積の約83%を占め，利用可能な森林資源が充実している。さらに，保安林等の制限林が約1万4千haあり，水資源のかん養や県土の保全及び自然環境保全等の重要な役割を果たしている。</p> <p>本計画流域は林地生産力が高く，充実した森林資源に恵まれており，本県を代表する林業地帯となっているが，木材価格の低迷や林業労働力の不足などから，荒廃した森林が増加しつつあるため，施業の集団化や素材生産コストの低減を図るとともに，本計画では次のことを目標に掲げ，健全な森林の育成と森林の持つ公益的機能の持続的発揮に向けた森林整備を推進する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：8,866ha 人工造林，下刈り，枝打ち，除伐，間伐等</p> <p>総事業費：1,973,505千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 4.75
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況等の森林の現況、森林整備の緊急性等からみて必要性が高いと判断される。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能確保はもとより、将来の優良材の安定的生産にとって有効である。</p> <p>森林は，多様な機能を有しているがこれらの機能は一度失うと回復に長時間を要することから，適時適切な施業を計画的に実施することが不可欠である。 本計画は，森林の年齢構成等に応じた適切な森林整備等の計画をしているほか，効率性・有効性が認められ，採択要件も全て満たしている。 このため，森林整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 八溝多賀

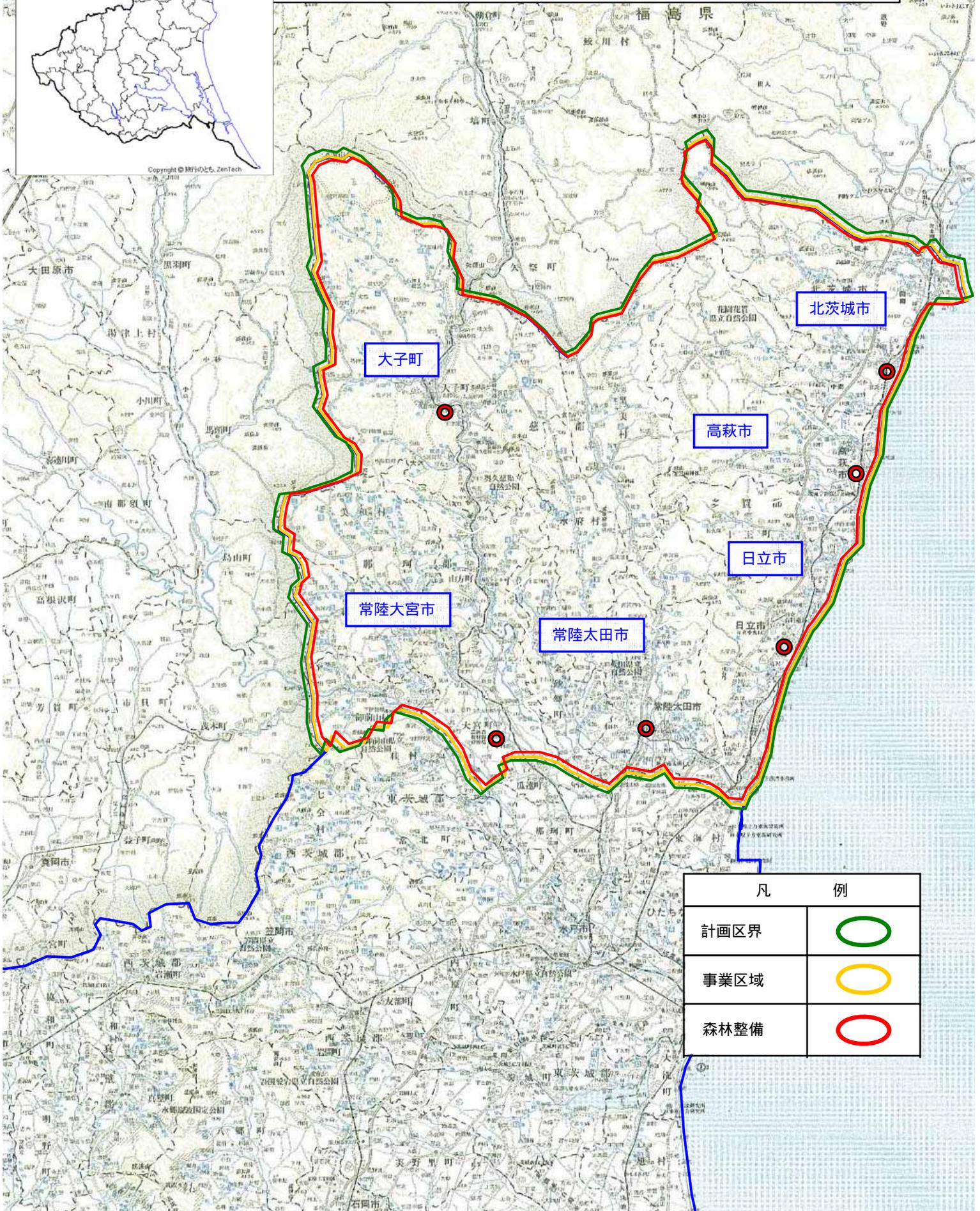
茨城県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	8,252,353	
	流域貯水便益	226,256	
	水質浄化便益	4,808,562	
山地保全便益	土砂流出防止便益	9,602,482	
環境保全便益	炭素固定便益	532,096	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	462,485	
総 便 益 (B)		23,884,234	
総 費 用 (C)		5,023,460	
費用便益比	$B \div C = \frac{23,884,234}{5,023,460} = 4.75$		

茨城県



森林環境保全整備事業 八溝多賀地域（茨城県）概要図



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	

事前評価個表

整理番号	30
------	----

地域（地区）名	那珂川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	栃木県	対象市町村	矢板市ほか8市町
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>那珂川地域は栃木県の北東部に位置し、日光国立公園の一部である北西部山岳地帯の那須火山群から高原山と中央の平地・丘陵地帯を挟んだ八溝山付近の比較的緩斜部の人工林地帯から南部茂木町に続いている。総土地面積は233千haで県土の36%を占め、森林面積は132.8（うち民有林90.2）千haで地域内の森林率は57%であり、このうち民有人工林は47.7千haで人工林率は53%となっている。本計画では流域内5市4町を対象としている。</p> <p>西部の高原林業地域、北東部の八溝林業地域を中心に古くからスギ・ヒノキ人工林施業による素材生産が広く行われており、豊富な森林資源を背景に大規模製材工場が多数立地している。中南部の丘陵地帯ではナラ・クヌギ等の育成天然林施業によるシイタケ原木生産が行われ、広葉樹主体の里山の景観を形成している。また本地域内の森林は、地域内はもとより下流県の重要な水源林となっており、水資源のかん養、山地災害防止に加え、保健休養の場、地球温暖化防止等の多様な公益的機能の高度発揮が求められている。</p> <p>本地域人工林は齢級構成のピークが 齢級となっており、利用期を迎えた充実した森林資源を有するものの、林業採算性の悪化や不在村森林所有者の増加等から林業生産活動の停滞や必要な施業の遅れが生じており、これらの対策が喫緊の課題となっている。</p> <p>このことから、本事業では低コストで効率的な施業を進めるための集約化を図り、～ 齢級の人工林については引き続き適正な森林造成を目的とした下刈、除伐を行うとともに、～ 齢級の林分については路網整備と併せた搬出間伐により材の搬出を積極的に進めていく。また公益的機能の高度発揮に向け、奥地等条件不利人工林の広葉樹林への誘導や、里山における天然林施業等により多様な森づくりを推進していく。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：12,970ha 人工造林、樹下植栽等、下刈、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：6,285,315千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 2.73
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の現状からみて必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の有効活用の観点、併せて森林整備による水源かん養、土砂流出防備、また多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点から有効である。</p> <p>充実期を迎えた森林資源を背景に、林業生産活動が持続的に実施されることによる山村地域の活性化や、適正な森林整備を通じた森林の持つ公益的機能の高度発揮が期待できる計画となっており、費用対効果等の採択要件も満たしていることから平成23年度から本計画を実施することは適当である。</p>

便 益 集 計 表

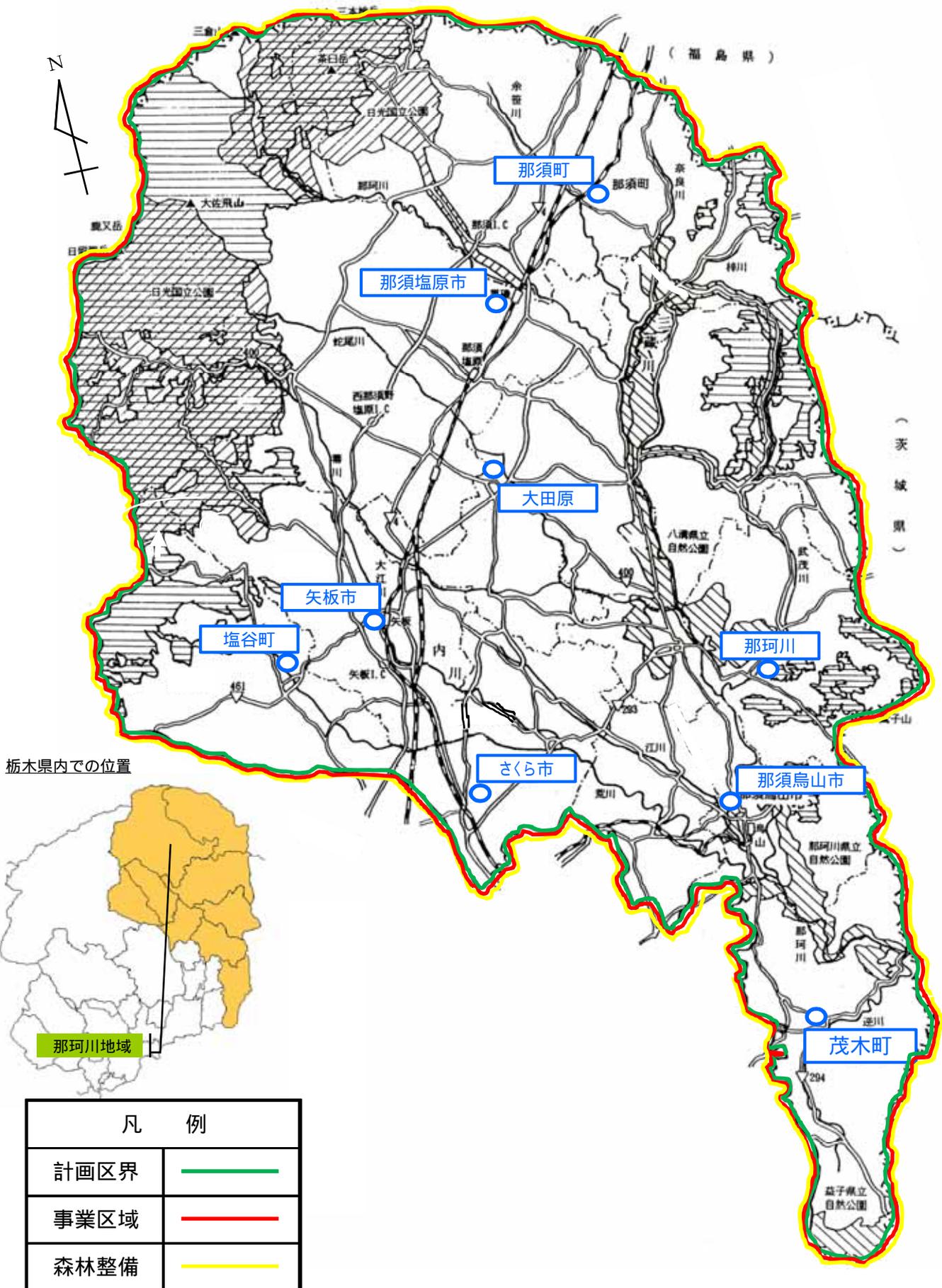
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 那珂川

栃木県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	12,458,597	
	流域貯水便益	765,855	
	水質浄化便益	5,943,775	
山地保全便益	土砂流出防止便益	12,107,289	
環境保全便益	炭素固定便益	1,327,021	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	838,122	
総 便 益 (B)		33,440,659	
総 費 用 (C)		12,209,712	
費用便益比	$B \div C = \frac{33,440,659}{12,209,712} = 2.73$		

森林環境保全整備事業 那珂川地域(栃木県) 概要図



事前評価個表

整理番号	3 1
------	-----

地域（地区）名	<small>きぬがわ</small> 鬼怒川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	栃木県	対象市町村	宇都宮市ほか6市町
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>鬼怒川地域は栃木県の中央部に位置し、北西部は日光国立公園の中核である男体山、白根山などの日光火山群が連なり、これらの南東の低山地、中央の平坦都市部から東部丘陵地帯に続いている。総土地面積は238千haで県土の37%を占め、森林面積は142.7（うち民有林 60.7）千haで地域内の森林率は60%であり、民有人工林は30.4千ha、人工林率は50%となっている。本計画では流域内の3市4町を対象としている。</p> <p>北西部日光市は隣接する鹿沼市とともに日光林業地域の中心であり、スギ・ヒノキの生育に適していることから古くから人工林施業による素材生産が盛んに行われ、県内最大の人工造林地帯となっている。南東部丘陵地帯はナラ・クヌギ等の育成天然林施業によるシイタケ原木生産が行われており、これら広葉樹林が里山の景観を形成している。また複数の大規模ダムを抱える利根川流域の最上流部として地域内はもとより下流都県の重要な水源林となっており、水資源のかん養、山地災害防止に加え、保健休養の場として、地球温暖化防止等の多様な公益的機能の高度発揮が求められている。</p> <p>本地域人工林は齢級構成のピークが 齢級前後となっており、利用期を迎えた充実した森林資源を有するものの、林業採算性の悪化や不在村森林所有者の増加等から林業生産活動の停滞や必要な施業の遅れが生じており、さらに近年では北西部の人工林ではシカ・クマによる林木への食害・剥皮被害が甚大であり、これらの対策が喫緊の課題となっている。</p> <p>このことから、本事業では低コストで効率的な施業を進めるための集約化を図り、 ~ 齢級の人工林については引き続き適正な森林造成を目的とした下刈、除伐を行うとともに、 ~ 齢級の林分については路網整備と併せた搬出間伐により材の搬出を積極的に進めていく。また公益的機能の高度発揮に向け、奥地等条件不利人工林の広葉樹林への誘導や、これら施業と併せ野生獣による被害への対策の実施や里山における天然林施業等により多様な森づくりを推進していく。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：2,657ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,748,054千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 2.51
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の現状からみて必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の有効活用の観点、併せて森林整備による水源かん養、土砂流出防備、また多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点から有効である。</p> <p>充実期を迎えた森林資源を背景に、林業生産活動が持続的に実施されることによる山村地域の活性化や、適正な森林整備を通じた森林の持つ公益的機能の高度発揮が期待できる計画となっており、費用対効果等の採択要件も満たしていることから平成23年度から本計画を実施することは適当である。</p>

便 益 集 計 表

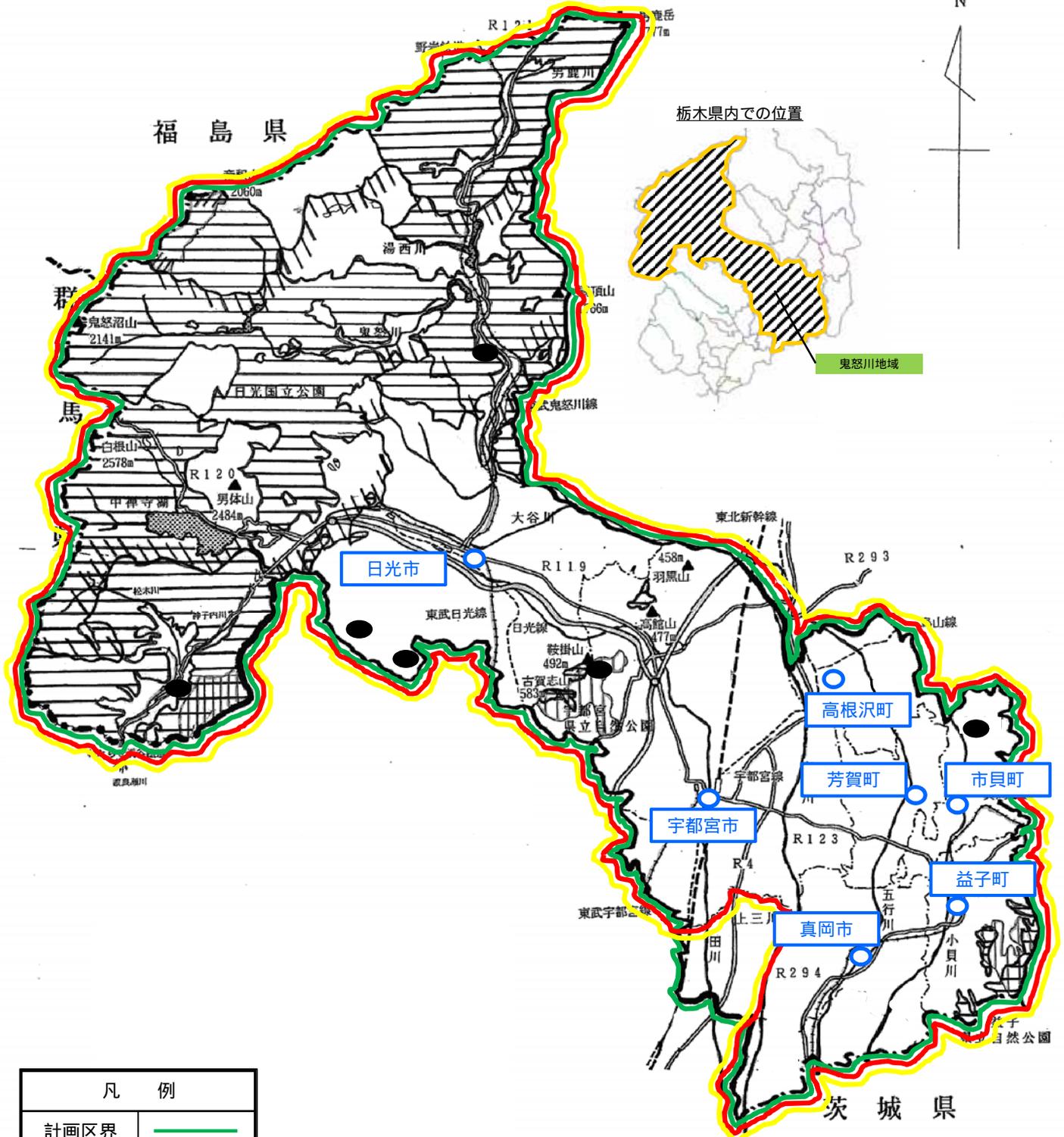
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 鬼怒川

栃木県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,179,095	
	流域貯水便益	69,543	
	水質浄化便益	1,550,717	
山地保全便益	土砂流出防止便益	2,898,354	
環境保全便益	炭素固定便益	179,964	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	80,497	
総 便 益 (B)		7,958,170	
総 費 用 (C)		3,168,898	
費用便益比	$B \div C = \frac{7,958,170}{3,168,898} = 2.51$		

森林環境保全整備事業 鬼怒川地域(栃木県)概要図



凡 例	
計画区界	— (Green line)
事業区域	— (Red line)
森林整備	— (Yellow line)